

政治改革以降の政党の集票構造と地域特性に関する実証分析	一	森
国と地方の選挙リネージュ	一	名取良太
— 不均一な選挙制度がもたらす集票構造の特質 —	一	一七
ソーシヤル・キャピタルと活動する市民	一	一七
市民参加に対する自治体職員の評価	一	二〇三
— 自治体の規模・部局による相違を中心に —	一	金宗郁
何が地方議会への信頼を決めるのか？	一	三九
— 手続きの公正に注目したシナリオ実験による検証 —	一	中谷美穂
地方自治体と大学との連携による主権者教育の意義とその効果	一	二五
地方議会の議員報酬の規定要因	一	二八三
— 市区町村議会データに基づく実証的検討 —	一	築山宏樹
韓国における民主化以降の地域主義投票者	一	三〇七
「代表の不平等」(Unequal Representation) に関する新たな概念と指標の可能性	一	四四
「ほとんど無害な」投票行動論	一	四六
候補者リクルートメントの変容と政党組織	一	原田勝孝
— 候補者のプロフィール・政策的立場・議会行動 —	一	四四
有権者の変容	一	堤英敬
— 世代交代と低投票率 —	一	五六
IPBES and Biodiversity Policy:	一	五五
From the Perspective of Multi-level Governance	一	OYAMA, Kosuke
土地利用規制について	一	五四
	一	麻生良文

性行為と損害賠償(一)	二	金山直樹
— 慰謝料の再構成に向けて —		
アメリカ・雇用法リステイトメントにおける労働者の忠実義務と	二	植田 達
在職中の競業・兼業に対する制限(一)	二	植田 達
長江葛洲壩ダムの失敗と三峡ダム計画の再浮上	三	林 秀光
— 中国文化大革命期の国家建設における國務院業務組 —		
性行為と損害賠償(二・完)	三	金山直樹
— 慰謝料の再構成に向けて —		
アメリカ・雇用法リステイトメントにおける労働者の忠実義務と	三	植田 達
在職中の競業・兼業に対する制限(二・完)	三	植田 達
特集 シリーズ比較法シンポジウム二〇一八(一)		
解題	四	前田美千代
アルゼンチン新民法典における国際私法規定	四	前田美千代 山口詩帆 芳賀雅顯 高橋一実 前田美千代
二〇一五年アルゼンチン新民法典における契約法および家族法の重要改正	四	高橋一実 前田美千代
韓国の日本水産物等輸入規制事件について	四	高島 忠義
参議院選挙と安倍政権の国会運営	四	松浦 淳介

特集 シリーズ比較法シンポジウム二〇一八(二・完)

国際契約における当事者自治の原則 — パナマ新国際私法典における対等当事者間・非対等当事者間の契約準拠法 —	五	ヒルベルト・ブタン 前田美千代／訳 北澤安紀／監修
比較法的視点から見たブラジル民事訴訟法の新潮流	五	アントニオ・カブラウ 前田美千代／訳 工藤敏隆／監修
小泉信三の福沢論吉論	五	小川原正道
暗号資産の有価証券該当性	六	柳 明 昌
— SEC の所説を中心として —		
天皇制国家と六大巡幸の機能	七	笠原英彦
— 明治初期の地方巡幸を中心に —		
行動立法学序説	七	池田真朗
— 民法改正を検証する新時代の民法学の提唱 —		
奥平昌邁の米國留学と福沢論吉	八	小川原正道
イギリス倒産法におけるプレパッケージ型会社管理(一)	八	工藤敏隆
大久保没後体制と地方巡幸	九	笠原英彦
— 宮府関係と中央・地方関係をを中心に —		
イギリス倒産法におけるプレパッケージ型会社管理(二・完)	九	工藤敏隆
行政信頼に対するプロセスと成果の関係	十	大山耕輔
— 日本・韓国・フィリピンを中心に —		
電気通信サービス利用契約における2年縛り・自動更新・解約金条項規制	十	丸山絵美子

—競争不全市場における約款・契約条項の適正化に関する検討—	……………	士一	玉井清
—昭和戦時文壇の苦悩についての一考察—	……………	士一	玉井清
—《政治と文学》室生犀星の観察と葛藤を手掛かりにして—	……………	士一	玉井清
歴史実践としての来歴探し	……………	士四	笠井賢紀
—岩国藩士／岩見沢開拓民 並河家を辿って—	……………	士一	澤井敦
「情報としての死」の変容	……………	士一	澤井敦
—死の社会学の観点より—	……………	士一	澤井敦
シンボルとしての原子力	……………	士二七	烏谷昌幸
—戦後日本社会を事例として—	……………	士二七	烏谷昌幸
滋賀県甲賀市K団地を事例とした戸建住宅団地における住民自治の研究	……………	士五	笠井賢紀
—自治会報を用いた自治会沿革の描写—	……………	士五	笠井賢紀
デジタル時代における取材・報道の自由の行方	……………	士五	鈴木秀美
—メディア適用除外とメディア優遇策—	……………	士五	鈴木秀美
現代日本におけるニュース文化のレジームとその「危機」	……………	士二七	山腰修三
社会運動に関する報道	……………	士一三	宋愛
—フレーミングと運動の意味づけに関する考察—	……………	士一三	宋愛
プロバガンダエージェントとしてのオピニオンリーダー	……………	士一五	津田正太郎
—「コミュニケーションの二段階の流れ」のもう一つの歴史的起源—	……………	士一五	津田正太郎
政治コミュニケーションと社会的構築主義	……………	士一八	山口仁
—「メディアをめぐる現実」から「コミュニケーションをめぐる現実」へ—	……………	士一八	山口仁
政治的正統性（正当性）概念の再検討	……………	士二七	湯本和寛

メディアの発展とセレブリティの変容	……………	三三	平井智尚
ジャーナリズムと「感情の政治」	……………	三五	三谷文栄
〈反〉多文化主義的ポピュリズム	……………	三七	新嶋良恵
——中産階級 <small>ミドル</small> アメリカの構築——			
Political Polarization and Selective Sharing in Korea:	……………	三三	LEE, Jinah
Exploring the Role of Presumed Media Influence and Hostile Media Perception			
韓国におけるメディアアシニシズムと政治ニュースの「消費」	……………	三六	李光鎬
The Shrinkage of Middle Classes in Japan?	……………	三九	TAKENOSHITA, Hiroshi
The Growing Labour Market Flexibility and its Consequences for the Class Structure			
From Liberal Multiculturalism to Muscular Liberalism:	……………	四一	SHOBARA, Yoshikazu
Changes in the Official Discourses of Multiculturalism in Australia			
Chinese Gang Wars in the Netherlands Indies:	……………	四三	YAMAMOTO, Nobuto
A Colonial War on Terror in the Age of the League of Nations			
研究ノート			
原子力規制委員会の独立性を検証する	……………	八	松浦淳介
——安倍政権と原発の再稼働——			
大宝律復元考	……………	一三	上野利三
——養老律より唐律に近似する条項、及び未復元条項を含む律条——			
大宝律復元・続考、及び『政事要略』とそれに準じる逸文	……………	一七	上野利三

資料

連続講演 現代フランス憲法の課題―憲法裁判・憲法改正・表現の自由の限界― 解題	五	山元 一
憲法院は政治的機関か？	五	ジュリアン・ブドン 河嶋春菜 / 訳
フランスにおける憲法改正の失敗 ―二〇一一年以降の状況について―	五	ジュリアン・ブドン 井上武史 / 訳
フランス法における歴史修正主義と憎悪表現	六	トマ・オックマン 山元 一 / 監訳 橋爪英輔 / 訳
インターネット上の情報操作と憎悪の伝播 ―フランスの立法による応答―	六	トマ・オックマン 山元 一 / 監訳 田中美里 / 訳
ブラジル法における強制執行および権利実現手続	六	アントニオ・カブラウ 工藤敏隆 / 訳
二〇一七年フランス担保法改正準備草案に関する一考察	八	ジャン・ジャンク・アンリ 片山直也 / 訳 齋藤由起 / 訳
汚職の不法	九	フランク・ザリガー 佐藤拓磨 / 訳

判例研究

〔商法〕

六〇四	上場会社における有利発行を理由とする株主総会特別決議と不正発行による差止め	二一三	堀井拓也
六〇五	定足数を欠く取締役会決議に基づき代表取締役により招集された株主総会決議の瑕疵	三一五	藤田祥子
六〇六	取締役選任合意の法的拘束力	四二二	遠藤元一
六〇七	オリンピックパス取締役等に対する責任追及事件	五一〇	大島一輝
六〇八	アドバネクス株主総会決議取消請求等控訴事件	六七三	山本爲三郎
六〇九	金融商品取引法一六六条三項による取引規制の対象とされるには、法人等の役員等が重要事実をその職務に関し知ったこと、また、同人から当該重要事実の伝達を受けたことを要するとした事例	七二五	陳宇
六一〇	事前導入型買取防衛策に係る定款の定めと株主提案権の対象範囲	八二九	久保田安彦
六一一	後の株主総会決議不存在確認の訴えが併合された場合における取締役選解任決議取消しの訴えの利益	九二七	島田志帆
六一二	転換社債型新株予約権付社債公募発行の有利発行該当性、取締役の発行判断と善管注意義務	一〇五	杉田貴洋
六一三	団体信用生命保険の告知義務違反による解除の有効性	一一三	李鳴

〔最高裁判事例研究〕

四六七 平三〇三 (民集七二卷六号一三六八頁)

民事訴訟法研究会
二二七 大濱しのぶ

四六八 平三〇四 (民集七二巻五号四七七頁)

八三三 川嶋隆憲

〔民集未登載最高裁判事例研究〕

民事訴訟法研究会

48 訴訟費用のうち一定割合を受救助者の負担とし、その余を相手方当事者の負担とする旨の裁判が確定した後、訴訟費用の負担の額を定める処分を求める申立てがされる前に、裁判所が受救助者に猶予した費用につき当該相手方当事者に対して民法八五条前段の費用の取立てをすることができると認められる場合において、その額につき、受救助者に猶予した費用に上記裁判で定められた当該相手方当事者の負担割合を乗じた額とすべきものとした原審の判断に違法性があるとされた事例 三三九 川嶋隆憲

猶予費用の取立決定に対する原告棄却決定に対する許可抗告事件
最高裁判平成二九年九月五日第三小法廷決定(最高裁判二八(許)四〇号、破棄差戻)判例時報二二六〇号五頁、判例タイムズ一四四三号五六頁

〔下級審民事事例研究〕

民事訴訟法研究会

81 いわゆる「全店一括順位付け方式」による預金債権の特定が適法とされた事例
名古屋高裁金沢支部平成三〇年六月二〇日決定(平成三〇年(ラ)第四九号)、債権差押命令申立て却下決定に対する執行抗告事件 四一三 中島弘雅
判例時報二二九九号三三頁

82 一 破産会社からの事業譲渡が、無償行為否認(破産法一六〇条三項)の対象になるとされた事例
二 本来の弁済期が支払不能よりも前に到来する債務に対する期限前弁済が、非義務行為として、偏頗行為否認(破産法一六二条一項二号本文)の対象になるとされた事例 五三九 小原将照
大阪高裁平成三〇年一月二〇日判決、控訴棄却(確定)(大阪高裁平成三〇年(ネ)第一四六六号、同第一四六七号)、否認権行使等請求控訴、同附帯控訴事件、判例タイムズ一四五九号六四頁

紹介と批評

ロナルド・インゲルハート (山崎聖子訳)

.....

五一 関根政美

『文化的進化論—人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる—』

小此木政夫著 『朝鮮分断の起源—独立と統一の相克—』

.....

六九 長田彰文

特別記事

小林良彰教授略歴・主要研究業績

一 三三九

小島和貴君学位請求論文審査報告

二 一三三

手塚崇聡君学位請求論文審査報告

二 一四三

山田雄大君学位請求論文審査報告

三 一四七

鄭求宗君学位請求論文審査報告

三 一六三

長野晃君学位請求論文審査報告

四 一五三

出口雄一君学位請求論文審査報告

四 一六三

宗岡宏之君学位請求論文審査報告

四 一七六

吉田龍太郎君学位請求論文審査報告

五 一五九

川嶋隆憲君学位請求論文審査報告

六 一〇五

川波竜三君学位請求論文審査報告

七 一二七

大石裕教授略歴・主要業績

十二 三〇一